

ノフウクの日記念イベント

ひとりの想いを文化にする

社会福祉法人ゆうゆう理事長

北海道医療大学 客員教授

大原 裕介

北海道 5市町村・東京都文京区における事業展開

当別町

法人本部の所在地

当別町・北海道医療大学と連携のもと、住民
同士が支え合いによる共生型地域福祉の事業

江別市

江別大麻エリアで、重度障害児者の地域生活支
援システムの構築及び商店街活性化事業

苫小牧市

指定管理による地域共生型拠点と図書館を融合
させた交流サロンと社会的サポートが必要な子
どもの第3の居場所事業

岩見沢市

岩見沢市と連携のもと、空き店舗の常設ギャラ
リーの展開など障害者の芸術文化推進事業

和寒町

特別養護老人ホーム建て替えを契機とした福祉
を越境した「まちづくり」事業の和寒町・地域
住民・設計事務所と協働によるプランニングお
よび推進事業



東大U – gohan





コロッケ
¥280

米とザンギ
¥180

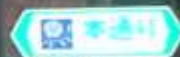
米と魚
¥180

米と魚
¥180

富田町民センター

ゆうゆう24

北海道医療大学ボランティアセンター





大学生によるインフォースラムサービスの展開

障害児者支援からあらゆる住民を対象とした共生型支援への発展

- 空き店舗を活用したボランティアセンター
- 当別町における障害児者社会資源が不足
- 学生任意レスパイトサービス事業の設立
- 地域を社会資源とする事業展開
- 障害児者支援から共生型支援への発展
- サービス受益者がサービス提供者に
- 0歳から96歳までのサービス
- 住民が住民を支えるシステムの創設
- 3年間の活動を経てNPO法人を起業

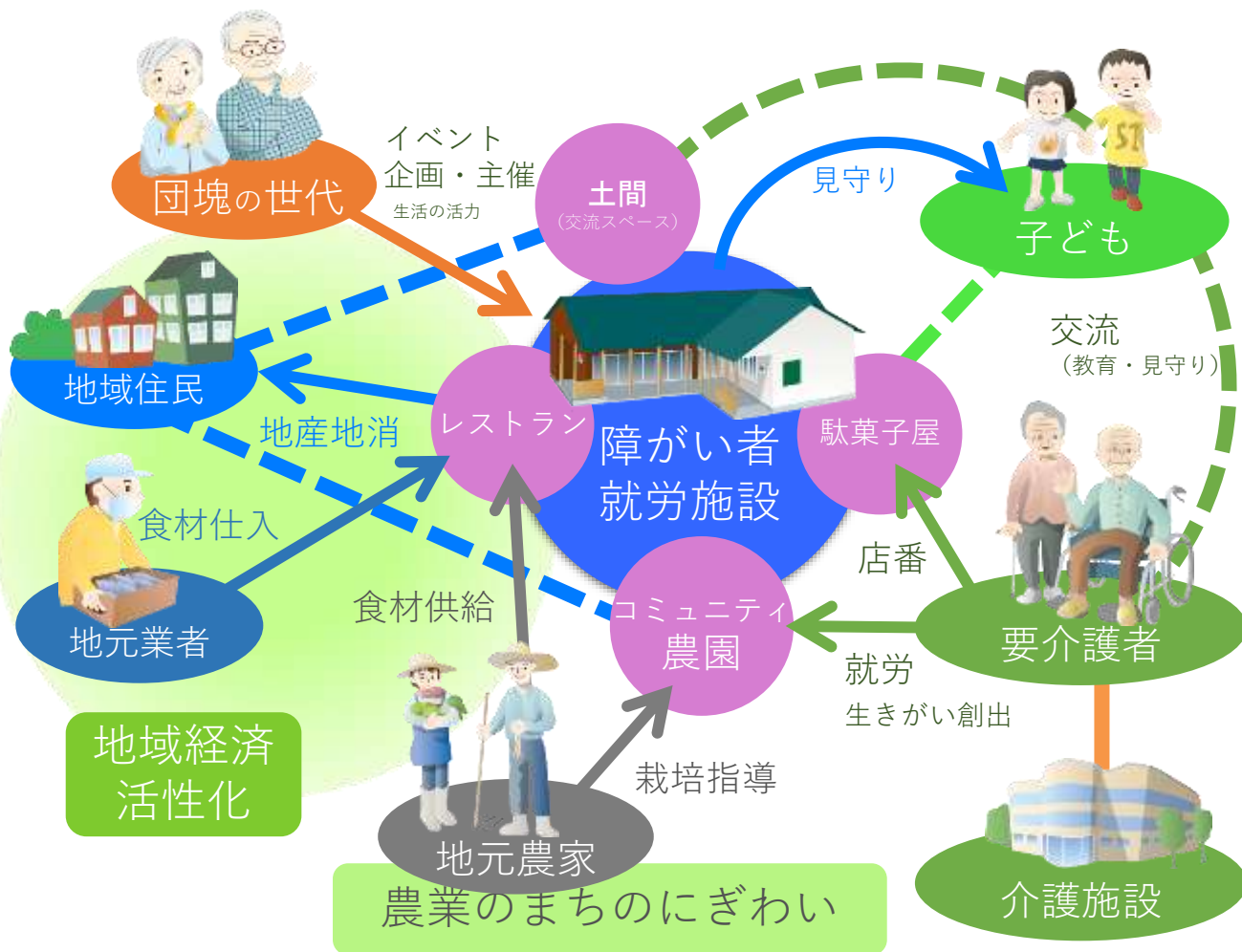




Double Tall



障害者就労支援事業による農業のまちづくり推進と 新たな住民の雇用と生きがい創出事業（北海道当別町）



◎団塊の世代／畑やレストラン、交流スペースを利用し、地域イベントの企画開催を、豊富な経験を活かし指導的に行うことでリタイア後の人生活力になっている。



◎要介護者／要介護状態にある高齢者が畑で農家経験を発揮し就労している。交流スペースでは世代を越えた交流により、生きがいと介護予防を創出している。

当別町の基幹産業である農業を通じて、子どもから高齢者まで、障害者、学生など、あらゆる地域住民が集い、活動することのできる交流拠点となると共に、地産地消を促し経済も活性化。











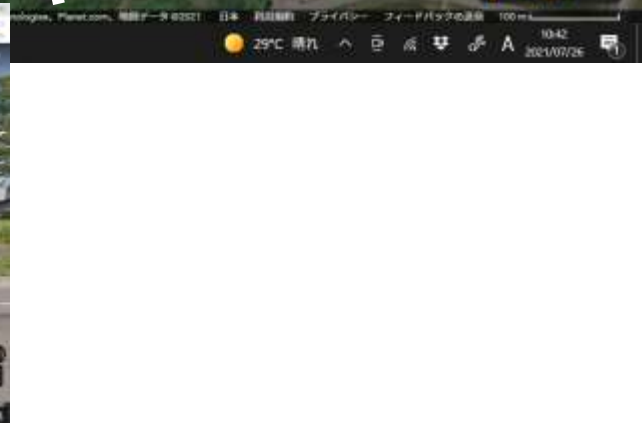
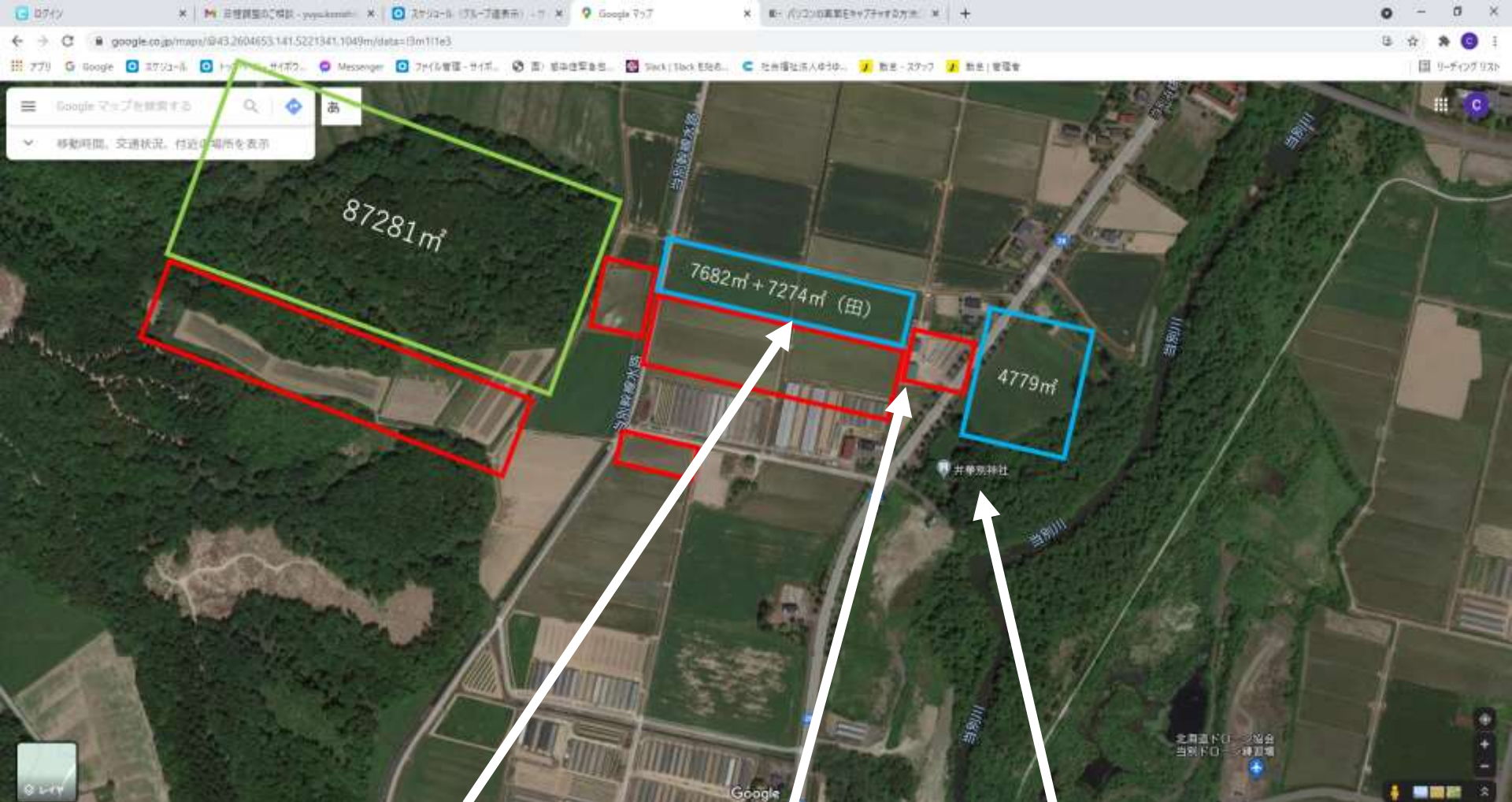








くわを持った尾崎さんは、あっという間に溝をつけていきます。足取りもくわさばきも素晴らしいものでした。若い者は見とれていました。









あらゆる住民の居場所となる農業とは



私たちの農業のステークホルダー

子どもたち

高齢者・認知症の人

ひきこもりの人

生活困窮者の人

障害のある人

大学生

農業者

デイサービスを拒否する若年性認知症の方の物語

- ・ 若年性認知症になったことによって仕事を失い、家族との縁も切れる
- ・ デイサービスを勧められるも「こんなところにいたくない。もっと働きたい」と希望
- ・ 表情も硬く、心を閉ざしている様子
- ・ 職人として父として、ぽっかり開いてしまった心の穴を埋めることができるのか？



地域の人たちと営む農業が居場所となっていく

地域に暮らす農業サポーターの方を仲間に「農業をみんなでやるのが好き」
参加されるたびに「今が一番楽しい！」作業が遅くてもそばで気にかけてくれる



居場所が彼をリカバリーしていく

- ・ 農作業をしている表情がどんどん柔らかく
- ・ いつもYシャツを着てこられるように
- ・ 彼を中心に輪ができ、帰り際にみんなに手を振って挨拶される



はたらくのその先に

工賃は、大好きなお酒とタバコに
お仕事中の写真を娘さんに送ると父に会いたい
Yさんが本人らしく暮らすとは



自治体をケアする北海道和寒町



人口：2915人（令和5年11月）
高齢化率：45%

かぼちゃの作付け面積日本一
越冬キャベツの生産が有名

和寒町福祉のまちづくり町民サミット 新たな福祉施設の建築計画(案)について

1 エントランス広場

メインエントランスに面した芝生の屋外広場。夏にはイベントを開催したり、自由に活用できます。

2 特養ユニット

特別養護老人ホーム
15室の個室と、その中央に共用のリビング・ダイニングを計画しています。庭に囲まれ、室内からも季節ごとの光景を楽しめます。

3 食の拠点

厨房・カフェ
特養、デイサービスの食事をつくる厨房と、和寒町の食材を使ったテイクアウト・イートインのできるカフェを計画しています。

4 中央広場

季節を問わず約60人ほどが集まることのできる屋内広場です。冬期でもイベントなど様々な活動を行うことができます。

5 ワークスペース

児童・生徒が放課後に勉強ができたり、サークル活動に使えたり、誰もが気軽に立ち寄れるワークスペースです。

6 創作

生活介護
工作活動(陶芸、絵画、木工、書道、編み物)や農作物の収穫など、ものづくりや手仕事のためのスペースです。ワークショップなどに活用することもできます。



〈だんだんベンチ〉
広場に向かって観客席にもなる、劇場のような階段ベンチ

〈みんなの食堂〉
配食のメニューをビュッフェ形式で楽しめる「みんなの食堂」

〈特養のサニールーム〉
談笑や日向ぼっこができる居室前の「サニールーム」

7 フリースペース

児童育成支援拠点
2階にはキッチンや、作業カウンター、小上がりのあるフリースペースを計画しています。子どもはもちろん、セミナーや食のイベントなどにも使うことができます。

8 デイサービス

通所介護
ファーム広場や創作スペースに面し、様々な活動と繋げることができる、元気のデイサービスを展開します。

9 ファーム広場

作物を育てたり収穫できる畑です。施設南側に位置し、農を介したコミュニティをつくれます。

10 駐車場

一般車両も入れる駐車場を南北2箇所に設けます。雨雪に当たらずに建物に入れるよう、南北両方の入口に車寄せを設けています。



あ 特養ユニット



い 中央広場



う ワークスペース



え 創作・デイサービス



お 2F フリースペース